

墳丘構造と石室

西田 和浩

【講座の概要】

1. 墳丘構造

前方後円墳は後円部と前方部で構成される。古墳時代のはじめ、円墳に突出部が付属し、前方後円墳が発生する。墳丘は段築によってつくられる。通常、後円部を3段築とするものが大型古墳の一般的な特徴となる。出現期は後円部の方が高く作られていたが、時代が下るにつれて前方部が大型化し、後円部と同じ3段築盛のものが現れる。また前方部に造出しが付属する。

築造する方法には、一から盛土を積み上げて作る方法と、元々の地形（地山）の高まりを利用して墳丘を整形する方法がある。吉備では地山を利用して古墳を作る場合が多く、造山古墳群も地山を利用して墳丘を作っている。墳丘内部には埋葬施設が設置される。

墳丘構造は周溝、造出し・鳥状遺構、段築・苜石、埴輪などからなる。古墳ごとに違いがあり、観察するときのポイントになる。

埋葬施設は墳丘中軸線を意識して配置される。埋葬施設にはいくつか種類があり、前期～中期には竪穴式石室が設けられ、中期以降に横穴式石室が主流になる。

2. 吉備の石室使用石材

吉備では前期から中期の石室に古銅輝石安山岩という香川県で産出する石材が使用される。前方後円墳など地域を代表する古墳の埋葬施設に使用され、特別な扱いであったと推測される。時期や地域によって採取される場所に特徴がある。古墳時代中期には造山古墳群周辺古墳に分布が集中し、他では見られなくなる。古銅輝石安山岩は古墳時代の吉備の動向を知る上でカギになる遺物と考えられる。また、過去に盗掘された古墳では周辺に安山岩が散らばっていれば、埋葬施設の構造を推定する手段になる。

3. 横穴式石室の特徴と各部の名称

横穴式石室は「九州型」と「畿内型」に大きく分けられる。「九州型」は4世紀末頃から福岡・佐賀県沿岸部を中心に前方後円墳の埋葬施設として築造され、その後5世紀には九州各地へ広がっていく。普及する過程で「肥後型（熊本県）」や「地下式横穴（宮崎県）」などに変化し、地域色がみられるようになる。九州外へもわずかに拡散するが、岡山市の千足古墳は肥後型石室の構造をよく残している。

「畿内型」は5世紀終わり頃に出現するが6世紀はじめに前方後円墳に採用されて、その後各地へ普及していく。

【参考文献】

宇垣匡雅 1987 「竪穴式石室の研究—使用石材の分析を中心に—（上）（下）」『考古学研究』34-1・34-2

宇垣匡雅 1992 「吉備の中期古墳の動態 —使用石材の検討から—」『考古学研究』39-3

白石 純 1991 「吉備地方の竪穴式石室石材の産地推定」『古文化談叢』第24集

広瀬和雄 2023 『日本の古代を知る 古墳まるわかり手帖』二見書房

松木武彦 2019 『考古学から学ぶ古墳入門』講談社

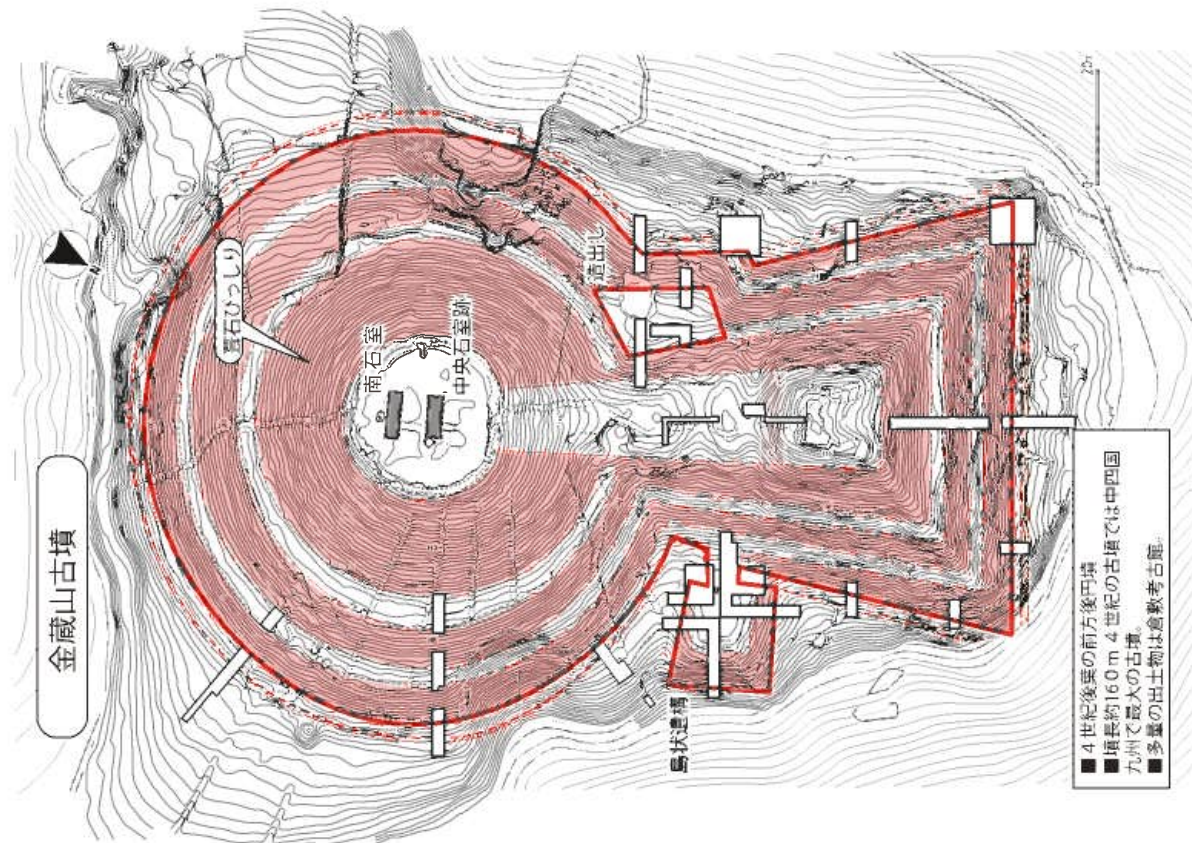
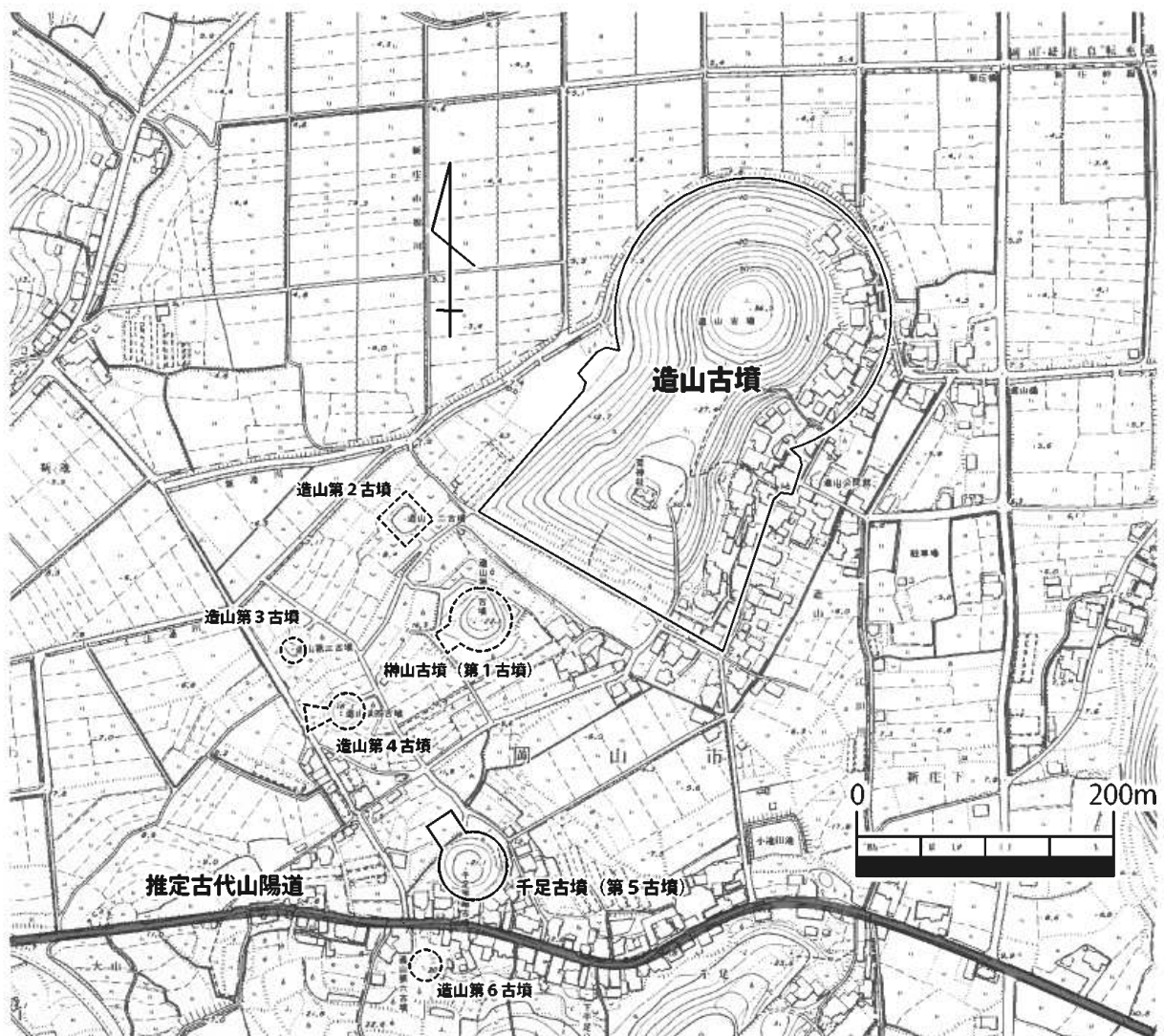


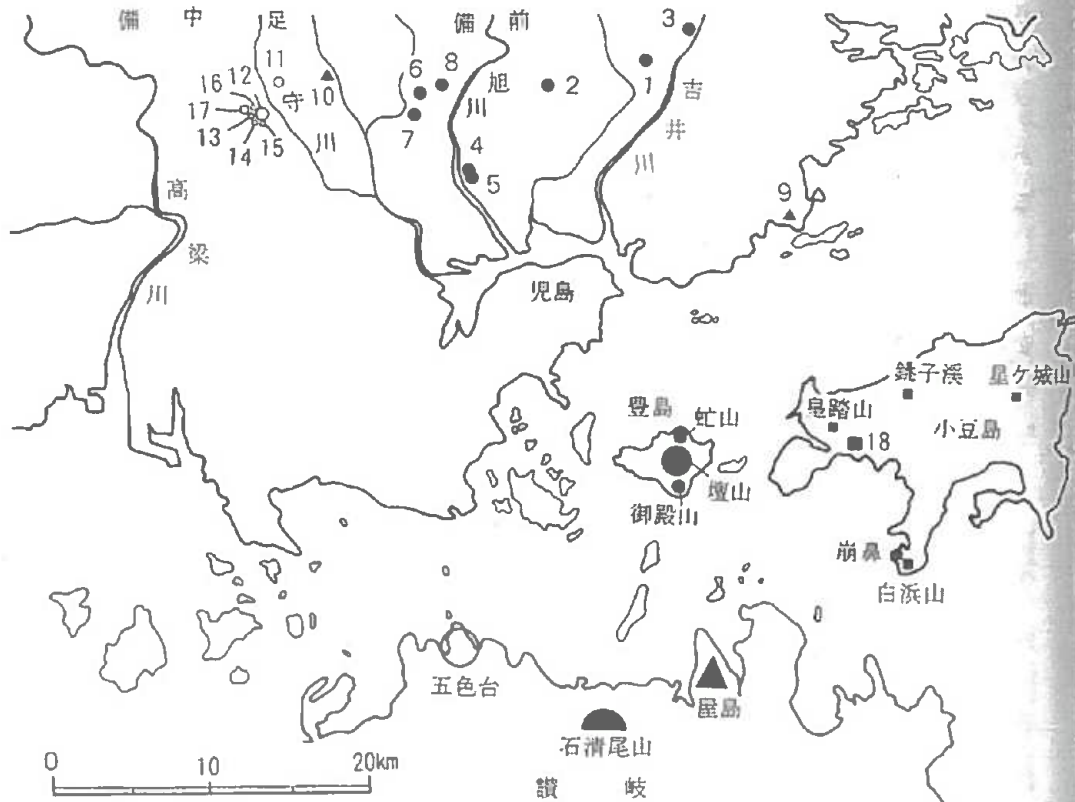
図1 造山古墳と金蔵山古墳



古墳名	墳形	墳丘	葺石	埋葬施設	副葬品
造山古墳	前方後円墳 (350)	後円部 3 前方部 3	○	後円部に竪穴式石室？ 前方部上に列り抜式石棺	—
榊山古墳 (造山第一古墳)	造出し付円墳？ (35)	2段？	—	割竹形木棺・竪穴式石 室？	対置式神獣鏡系倭鏡 1、馬形帯鉤 6、 環状銅製品 1、青銅製鈴 5、ガラス 小玉 12、龍文透金具 1、金銅製多孔 鈴 1、砥石 1、卵形石 2
造山第二古墳	方墳？ (30)	2段？ 周溝	○	不明・蓋石あり	—
造山第三古墳	円墳 (30)	—	—	不明	—
造山第四古墳	帆立貝形古墳？ (55)	後円部 2？ 前方部 1？ 周溝状遺構	—	石室有か？構造不明	—
千足古墳 (造山第五古墳)	帆立貝形古墳 (81)	後円部 3 前方部 1又は 2 周溝状遺構	なし	後円部に初期横穴式石室 2基	分離式神獣鏡系倭鏡 1、五炊鏡 (倭 鏡) 1、鉄製革綴甲冑帯金残欠 1、鉄鍔 2、玉類
造山第六古墳	円墳 (30)	—	—	石室有か？構造不明	—

図2 造山古墳群の位置と内容

にさた。

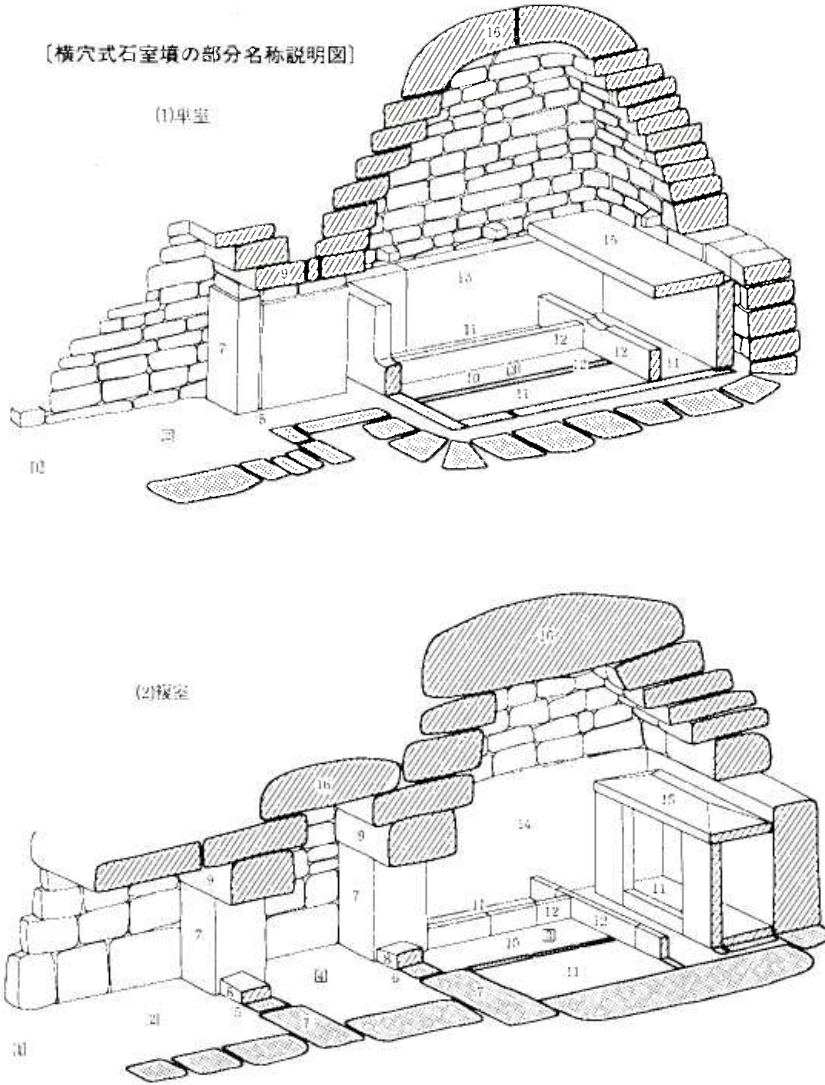


1. 浦間茶白山古墳 2. 穴甘山王山古墳 3. 山伏の墓古墳 4. 網浜茶白山古墳 5. 操山109号
 6. 七つ坑1号墳 7. 津倉古墳 8. 一本松古墳 9. 牛窓天神山古墳 10. 一宮天神山古墳
 11. 大崎下西古墳 12. 造山古墳 13. 造山2号古墳 14. 造山6号古墳 15. 千足古墳 16. 新庄車塚古墳
 17. 宿寺山古墳 18. 富丘古墳群

古墳名	蛍光X線分析による推定	偏光顕微鏡観察による推定
浦間茶白山古墳	豊島、五色台、石清尾山地域	豊島(壇山)
穴甘山王山古墳	豊島、五色台地域	"
山伏の墓古墳	豊島地域(御殿山に近い)	豊島(御殿山)
網浜茶白山古墳 No.1	豊島、五色台、石清尾山地域	豊島(壇山)
操山109号墳	"	"
七つ坑1号墳	"	"
津倉古墳	豊島(壇山・御殿山に近い)	"
一本松古墳	豊島、五色台、石清尾山地域	"
牛窓天神山古墳	屋島地域	屋島
一宮天神山古墳	"	"
大崎下西古墳	五色台、豊島、石清尾山地域	五色台地域
造山古墳後円部	五色台、石清尾山地域	"
造山古墳前方部?	五色台、豊島、石清尾山地域	"
造山2号墳	五色台、石清尾山、豊島地域	"
造山6号墳	"	"
千足古墳	五色台地域	"
新庄車塚古墳	五色台、石清尾山地域	"
富丘古墳群	小豆島(皇踏山)	小豆島(皇踏山)

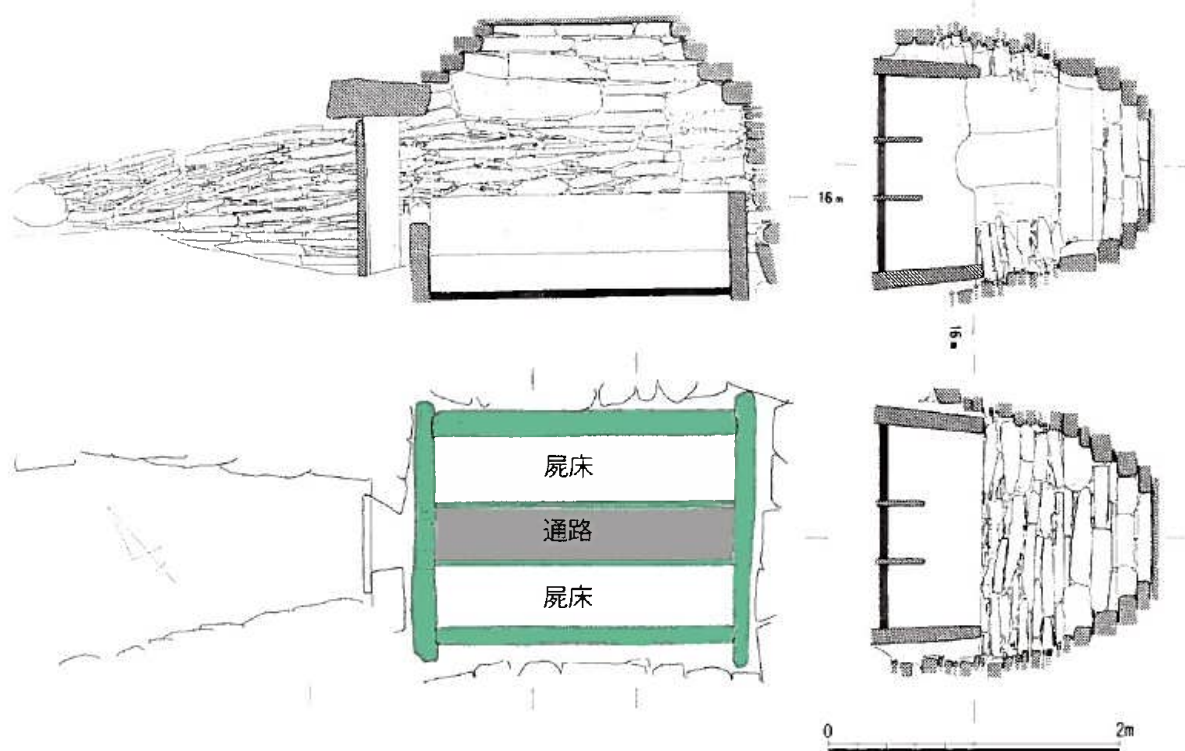
図3 安山岩原産地と出土古墳の位置および産地推定

〔横穴式石室墳の部分名称説明図〕

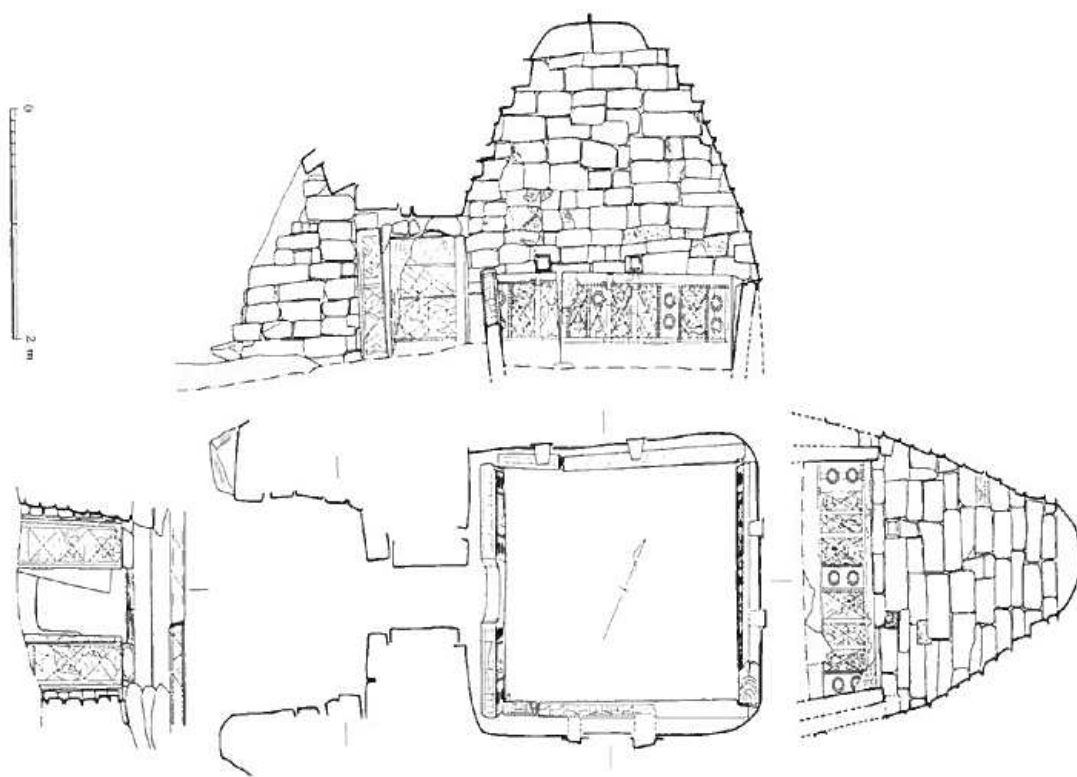


- | | | | |
|--------|--|---------|-----------------------------|
| 1. 前庭部 | 古墳入口前（狭道前）の広場。 | 8. 礎石 | 羨門や玄門の床に敷きわたした数層状の石。 |
| 2. 羨道 | 古墳の外部から玄室に通じる道。 | 9. 欄石 | 羨門や玄門の上に水平におたした石。 |
| 3. 玄室 | 古墳の主体となる屍体を安置する室。複室墳（室が2室ある古墳）の場合、奥室・後室・主室ともよぶこともある。 | 10. 通路 | 玄室や前室の中央部を貫く道。 |
| 4. 前室 | 複室墳（室が2室ある古墳）の場合、入口側にある室。 | 11. 屍床 | 屍体を収める所。 |
| 5. 羨門 | 前室や玄室の入口。 | 12. 区切石 | 区切石ともよぶ。用途を区切る境の石。 |
| 6. 玄門 | 玄室の入口。第二羨門ともよぶ。 | 13. 石障 | 囲み石ともよぶ。玄室の4壁に接して立てめぐらした板石。 |
| 7. 袖石 | 羨門や玄門の両脇にある石。 | 14. 腰石 | 玄室壁面の最下段の巨石。 |
| | | 15. 石屋形 | 玄室の奥屍床が家形に造られたもの。 |
| | | 16. 天井石 | 玄室や前室の最上部に乗せられた石。 |

図4 「九州型」石室の構造と部分名称



ヤンボシ塚古墳



井寺古墳

図5 九州の初期横穴式石室

①④⑬～⑳：古銅輝石安山岩

その他：天草砂岩

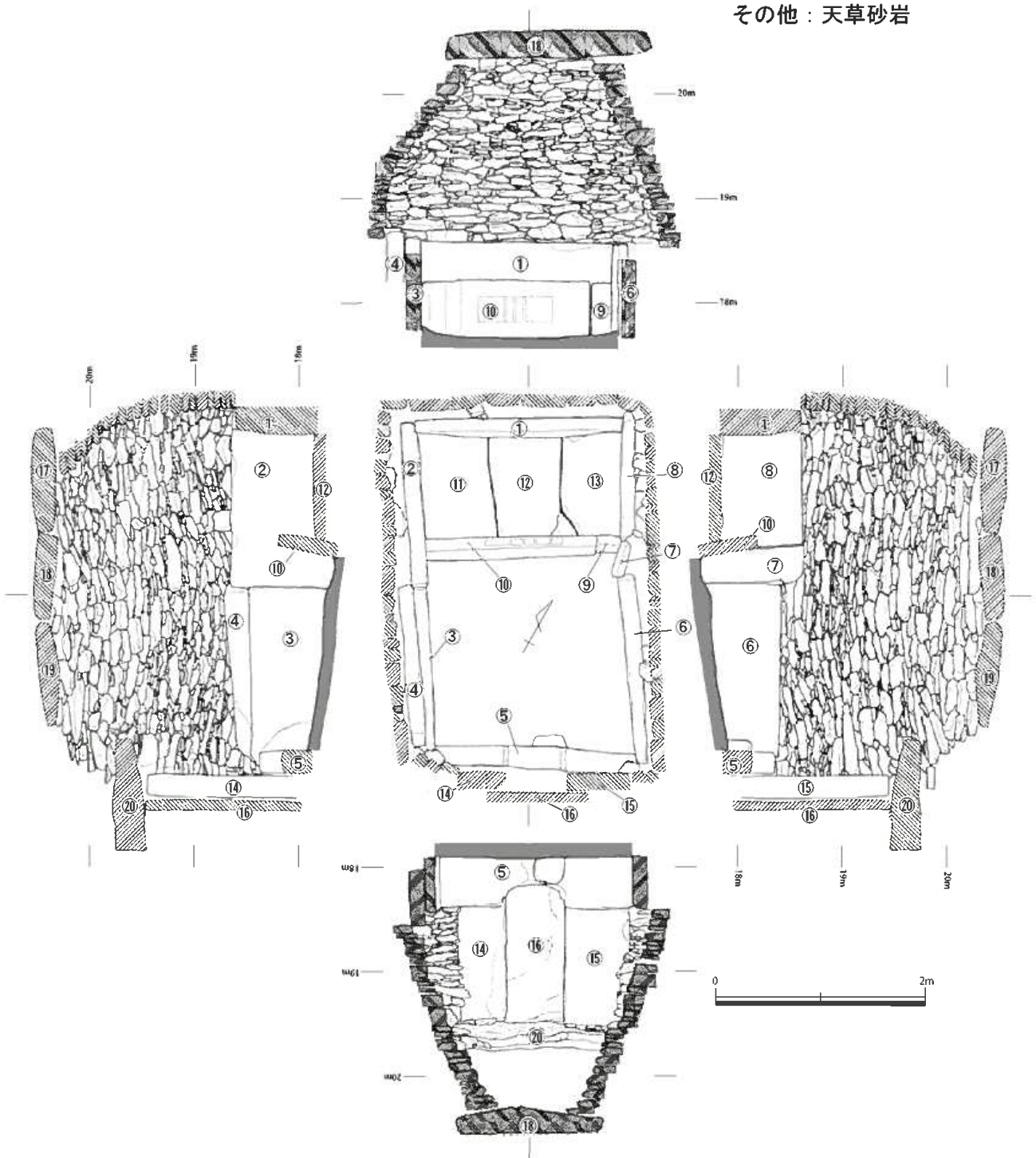


図6 千足古墳石室実測図

図出典

図3：白石 純 1991「吉備地方の竪穴式石室石材の産地推定」『古文化談叢』第24集

図4・図5 井寺古墳：熊本県教育委員会 1984『熊本県装飾古墳総合調査報告書』

図5 ヤンボシ塚古墳：宇土市教育委員会 1986『ヤンボシ塚古墳・檜崎古墳』

上記以外は西田作成